

# 保護者対応を意識した乳児保育授業

## — 学生主体とグループワークをとり入れた授業報告 —

沼野 みえ子

Infant Care Education Focusing on Parent Care:  
A Report on a Student-oriented Group Work Class

Mieko Numano

### はじめに

保育所保育指針によると、「保育所は児童福祉法に基づき保育に欠ける乳幼児を保育することを目的とする児童福祉施設である。したがって保育所における保育は、ここに入所する乳幼児の最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしいものでなければならない。」とあり、保育職は子どもへの保育に最善を尽くすよう謳われている。しかし昨今はさまざまな社会情勢や子育て環境の変化から、子どもよりもむしろ保護者へのかかわりの方が重要性を増してきている現状がある。

これから保育職に就こうとしている学生に、保護者対応の重要性を伝えたいと考えていたところ、学生側からも保護者対応に関する事例について勉強したいという要望があがった。教員の思いと学生の要望が一致したので、「保護者対応について学ぶために、現在子育て中の親が抱えているさまざまな状況について知る。」ことを目的に、具体的な方法を学生とともに考え授業で展開した。

その経緯や実施方法、その効果などについて報告する。

### 授業で取り扱うことになった経緯

現在子育て年齢になっている人たちが成長期を過ごしてきた家庭環境や社会的背景、また実際に保育園に子どもを預けている保護者の保育園に対する要望調査結果等から、保護者への対応についてぜひ学ぶ必要があると考えた。

#### 1、保護者が成長期を過ごしてきた社会的背景

少子化・核家族化が進む中で親類縁者や近所・地域とのつながりが希薄になり、育児に関する知識・技術の伝承や支援を得ることが難しくなっている。一方で、情報化社会において育児情報が氾濫し、育児がうまくできないことにストレスを抱えている親（特に母親）が増えている。核家族という小単位の人間関係で、物質的・経済的に満たされたなかで育ってきた人たちが子育て世代になってきたのである。

この世代の人たちは、子ども中心の生活を送るなかで、受験以外の日常の問題は親や学校が解決してくれて、家族以外の人と意見を交わしたり、自分以外の人気持ちや状況を考える訓練をする機会に触れることが少なかった。また近隣、親戚などのいわゆるうるさい存在は、世間という常識を考える材料として機能してきたが、近年はそのような付き合いも希薄となってきた。このような環境のなかで育ってきた人たちがおとなになり、結婚をして子どもを持つ年代になってきたのである。そしていま自分の思い通りにならない子育てにストレスをためこみ、育児放棄や逆に過剰な干渉に走る状況が生まれてきている。

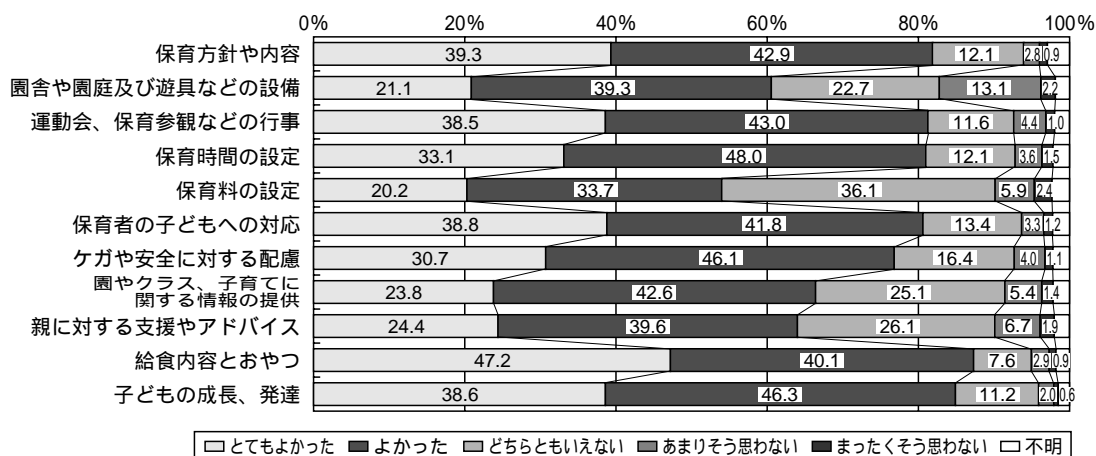
学業成績は優秀で受験も勝ち抜き、順調に就職も経て結婚して子どもをもうけた女性が、どうしても泣きやまない赤ん坊を前になすすべもなく立ちつくし、そこで初めて人生の挫折を味わう。一生懸命子育てを頑張っているのに誰もほめてはくれず、無力感とともに自信を失っていく。その不安感を解消するかのように、保育園に子どもを預けている母親の多くは子どもよりもまず自分の話を聞いてほしい、認めてほしい、受け入れてもらいたいという慈愛願望心を優先させている。また、親自身が過干渉・過期待の中で育てられ、自分自身の真の欲求を押し殺して生きてきた結果、精神的に問題を抱えたり他者への信頼感が持てずに苦しんでいたりする。これからの保育職はこのような背景をもつ保護者の対応が重要な役割となってくる。

## 2、保護者が保育所に求めているもの

2005年6月に東京都社会福祉協議会から、「保育園を利用している親の子育て支援に関する調査報告書」が出された。調査の目的は、社会の多様化した価値観の中で生活している親たちの生活実態は個別性が強く、また保育ニーズも多様なものがあることから、保育園の利用者が園に対してどのような思いを持っているか、どのような役割を期待しているのかを明らかにしようとしたものである。調査対象は、東京都社会福祉協議会の加入している公立・私立保育園から抽出された保育園である（回収用紙は1,690通、回収率は68.5%）。

その調査によると、保育園を利用しての感想は図表1のようになっている。「とてもよかった」と「よかった」を合わせて評価が高いのは、「給食内容とおやつ」「保育方針や内容」「保育者の子どもへの対応」「子どもの成長発達」「運動会、保育参観などの行事」などである。一方「園やクラス、子育てに関する情報の提供」「親に対する支援やアドバイス」などは評価が低い。保護者は子どもの発達を支える保育には満足しているものの、子育て支援には物足りなさを感じているという結果が読み取れる。

図表1 保育園を利用しての感想（%）



さらに翌々年（2007年）に同協議会から「保育園を利用している子育て支援ニーズに関する分析と提言」が出された。それには親から寄せられた自由記述部分の分析結果が報告されている。自由記述には、母親たちが保育園に望んでいることがそのまま記載されている。その中から保護者対応の参考になると思われる母親の切なる声のごく一部を抜粋して紹介する。

#### 子育ての難しさ・つらさの訴え

- \* 「今の親は…」とマイナス面ばかりを指摘するのではなく、プラス面も大いに見つけてほめてほしい。
- \* 情報過多の最近、親は将来の子どもの姿や社会環境にとても不安を感じている。親としての自分の育児に自信が持てない。
- \* 私は2年前からうつ病を病んでいます。家には父母がいなく子どもは祖母が見ていますが、時々祖母に子どもをみるようにいわれるので懸命にみえています。
- \* 子どもを産むんじゃなかったというのが素直な気持ちです。

#### 保育園や保育者の質に関する要望

- \* 子ども中心でということはよくわかるのですが、少しは親のこともわかってほしい気がします。理想でものをいわれても実際にはうまくいかないことも多く、悩みがあるときなどつつい手抜き子育てをしてしまう時もあることをわかってほしいです。
- \* 病児保育室に預けた子どもを先に引き取りに行くので、もう一方に「遅れます」と連絡を入れてあったにもかかわらず、迎えに行った時に「早く来てください！」と事務的に対応されるなど人間を相手にしていないと感じることがあります。もう少し柔軟な対応をしていただきたいと思います。
- \* 20歳ぐらいで専門課程を修了して保育士になる…。当然のこととはわかっていてもどうしても自分の子どもを預けるのには抵抗があります。「子どもを産んだことがないのに…」とか「育児しながら働いているわけじゃないのに…」といたくなるような保育士がたくさんいます。
- \* 保育に携わる保育士の質の向上を望みます。明らかに保育士に適さない、するべきでない人がいます。保育士の立場を守るために子どもたちが犠牲になっている場合も多い。多くを語れない小さな子どもたちにとって、精神的いじめをする人がいることを残念に思います。保育は教科書どおりするのではなく、子どもを愛する人間としての心を持った人に携わっていただきたいです。

#### 家庭でできないことを保育園に要求

- \* 集団生活のルールをしっかり教えていただきたいです（時間、思いやりなど）。小学校生活で困るのが嫌なので、今のうちにやってほしい。
- \* ひらがなを教えたりする取り組みがあれば助かるし、ありがたい。（逆に勉強的なことせずに、手足、身体を動かして健全な脳を育ててほしいという要望もあり）

#### 保育時間に関する要望

- \* 午後10時までの延長保育を希望。また、7時から20時までの延長保育を0歳児にも適応してほしい。
- \* 保育時間の大幅な延長、日・祭日の保育を希望。保護者参加の行事を減らしてください。
- \* 延長保育を使いやすくして、病時保育もぜひやってほしい。

以上のように、保育園への要望は23種類に分類されるほど多岐にわたっていた。もちろん保育園へ

の感謝の言葉をつづったものもあったが、多くの母親が保育園に対してさまざまな要求を持っており、保育園あるいは保育者への批判と受けとられるような記載が多数見られた。

これからはこのようにさまざまな考え方、価値観を持った保護者に対応していかなければならない。また精神的な疾患を有する親も保育園を利用するようになっていることも、保育士に幅が求められる所以といえる。

### 3、学生の授業への要望

乳児保育は通年科目である。前期に乳児の心身の発達や栄養、その他環境整備等、子どもの育ちについて学習してきたが、終盤に事例検討を組み入れてみた。人的な環境を考えるにあたり、保育者や母親がどのような精神状態でいることが子どもの情緒の発達に望ましいかについて、グループごとに事例検討を行ったのである。そのとき学生たちは、一つのことを深く考えることや、他者の意見を聞き自分との共通点や違いに気づくなどさまざまな体験ができたようであった。その結果、後期の授業に対するアンケートでは 事例についての話し合いをしたい、手遊びなどを覚えたい、という要望が大多数を占めた。

以上のような経緯があり、「子育て時事問題」と名づけた事例検討と「手遊び等紹介」を授業に取り入れることになった。毎回教員が事例を準備すると内容に偏りが出る可能性もあることから、学生に時事問題を提供してもらうことにした。また手遊び等紹介は、手遊び、紙芝居、折り紙、手品など、瞬時に子どもの注目を集めることができそうなパフォーマンスを、学生が用意してきて、授業のはじめと終わりに紹介してもらったあと皆で遊んでみるという方法をとった（手遊び等の紹介は毎回3～4人ずつ行った）。

## 保護者対応を意識に入れた授業展開の実際

ここでは、子育て時事問題部分のみの授業の進め方について報告する。

### 1、目的

- (1) 保護者対応はどうあったらよいかを考えるにあたり、多角的に物事を見ることの重要性に気づく。
- (2) 保護者は多様な価値観や考え方、人生観を持ちながらここに存在し、子どもを育てているということに気づくために、広く世の中で起こっているさまざまなことに関心を持つ。
- (3) 将来、保育現場に出た場合の自分自身の保護者対応についてイメージできるようになる。

### 2、授業の対象者および科目

対象者：新潟青陵大学短期大学部 幼児教育学科2年生 43人（男子5人、女子38人）

科目：乳児保育。

### 3、授業の方法

後期初日の2コマを使い、学生と教員で授業の内容やすすめ方、準備するものや準備の方法等について話し合い、各回の担当を決めた（子育て時事問題にするか、手遊び等にするかは各自が選択し、発表順番も学生たちが決めた）。

#### (1) 事例の選択

保育や保護者への対応に直結するものでなくとも、世の中で起こっていることを広く知ることで

幅広い捉え方や考え方を身につけることがねらいであるので、基本的には何から選んでもよいとしたうえで下記のものを例として挙げた。

新聞、テレビニュース、テレビのドキュメンタリー番組、信頼できる雑誌等でとりあげられた問題。

自分の身のまわりのできごと。

実習先で経験した事例。

その他、国、ジャンルを問わず自分が関心のある問題、など。

## (2) 発表の方法

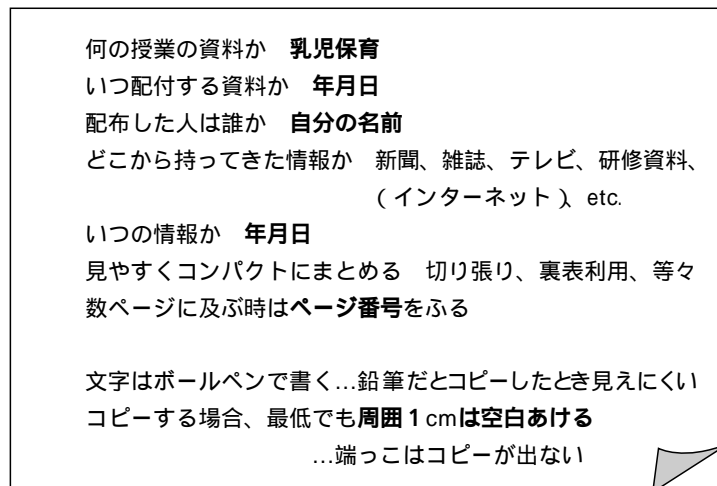
その日の担当になった学生は下記のような方法で発表を行う。

必ずレジюме(資料)を用意する...各自に資料の作り方を配付した(図表2)

発表の内容...・なぜその記事(問題)を選んだのか。

- ・どのようなことが書いてあったかの要点。
- ・そのことについて自分はどう思ったか、自分なりの意見・感想。
- ・皆に話し合ってほしい課題の提案。

図表2 資料の作り方



## (3) グループディスカッション(1グループは4~5人編成)

発表を聞いた後は、発表者からの課題について各グループで自由に意見交換をする(10~15分)

話された内容はグループごとに発表し、クラス全員が多様な意見・考え方に触れる。

毎回違うメンバーになるよう組み合わせをつくり、1テーマごとにグループを変える。

テーマによっては2グループに分かれてディベート的な手法をとることもある。

## (4) 各回授業のまとめ

教員が各グループから出された意見を要約し、保育場面や保護者への理解につながるようなコメントを加え皆に返す。それについて学生からの発言があれば付け加えて、さらに多様な見方・考え方に触れていく。

## 4、各回の実施内容

授業回数	月 日	子育て時事問題の内容
18	10月9日	「臓器移植について」新潟日報...脳死肝臓移植で一命をとりとめた女性が、結婚し子どもを出産した。救われた命に授かった命。臓器移植は1人の命だけを救うものでないという記事から、臓器移植と命について考えた。
19		「命の重さ受け止めて」新潟日報...新潟県内で相次いだ母親による新生児殺害や遺棄問題から、赤ちゃんポスト、若年出産、性教育などについて話し合った。
20	10月16日	「小学4年生～中学1年生で“うつ”が4%」新潟日報...1970年代以降子どもにもうつがあるといわれ始めた。子どもにもうつがあると知って驚いた。うつに対するイメージ、身近な人がうつになった場合どうするか、などについて話し合った。
21		「美談の陰で大きな犠牲」読売新聞...ドナーのケアが置き去りにされている問題。夫への臓器移植を十分納得しないまま、『妻だから』という理由で夫に生体肝移植をした女性が、移植後から健康をくずし、あげくに夫から離婚を要求された。ドナーとレシピエントのそれぞれの立場や、ドナー登録について考えた。
22	10月23日	「ゲームのやり方 話し合って守れる約束を」新潟日報...小さな子どもにゲームを与えることの是非や影響について。約束を守れるようにする工夫などの他、一方的に頭ごなしにやめさせるのではなく、子どもの心を尊重したコミュニケーションの大切さなども話し合った。
23		「男女の結婚観」厚労省報道発表資料、2004（少子化に関する意識調査研究）...最近の結婚意識と結婚実態についての統計から、結婚年齢が男女とも上昇している現状、結婚のよい点・悪い点、結婚しない＝ダメなのか、等について話し合った。
24	11月20日	「西区に市立養護学校」新潟日報...近隣に養護学校ができることへの住民の反応などについて、障害者への誤解・偏見、慣れないものに抱く不安、統合保育、ノーマライゼーション、などについて話し合った。
25		「パンチやキックが絶えない子どもへの対応」実習中に悩んだこと...キックやパンチを注意したら、「死んでも復活の種があれば生き返るんだよ！」と答えた子どもに怖さを感じた。発表者からの課題 この言葉を聞いてどう思うか、この場面にいたら命の大切さをどのように伝えたらよいか、について話し合った。
26	11月27日	「飢餓の報道で食育 残飯減らす大切さ学ぶ」新潟日報...給食の発足当初の目的と飽食時代の現代の目的の変化、賞味期限が過ぎたコンビニに弁当を廃棄している日本と飢餓に苦しむ国との格差、肥満との関係、賢い食べ方、食べない子どもが食べる気になるための対応の仕方、など幅広く意見交換した。
27	12月18日	「慈恵病院の赤ちゃんポスト 設置後も賛否両論」新潟日報...この問題は賛成派と反対派に分かれてディベートを行った。ほぼ半々の人数であった。ディベート後考えが変わった学生が入れ替わったが、それでも賛成・反対の割合は変わらなかった。一長一短があり考えさせられた。性教育の必要性についても話し合った。
28	1月22日	「代理出産について 選択肢なくさないで」新潟日報...代理出産について、選択肢の一つとしてあっていいという賛成意見が大多数であったが、「もし自分が頼まれたらどうするか」については全員が「イヤである」と答えた。男子学生も自分の配偶者が他人の子どもを出産するとしたら？の質問には絶対イヤであるという意見であった。立場を逆にすることで違った気づきを得られたようであった。

## 5、授業実施後のアンケート

全日程の終了後、この授業の趣旨の理解ができているかを把握するために下記のような2つのアンケート調査を行った。

## \*後期乳児保育授業に関するアンケート\*

アンケート1	<u>記名式</u>	2008.1.29実施
<p>後期の乳児保育授業では、多様な価値観、家庭環境、生活様式などを有する保護者への対応を考えることを目的に、世の中で起きている事件や問題、また実習の中で体験した疑問等についてグループ討議を行ってきました。</p> <p><b><u>この授業を通して、保育の専門職として学んで行かなければならないことは何だと思われましたか。</u></b>（1000文字以上で書いてください）</p>		

アンケート2	<u>無記名式</u>	2008.2.5実施
<p>後期は、皆さんが選んだ時事問題についてグループディスカッションをして発表という授業形態をとってきました。そのことについて伺わせていただきます。遠慮なくお答えください。</p> <p>問1、このような授業の仕方についてどう思いますか、番号を○でかこんでください。</p> <p>大変よかったと思う          まあよかったと思う          あまりよくなかったと思う          全然よくなかったと思う</p> <p>問2、上記で( )を選んだ理由。(必ず書いてください)</p> <p>問3、この授業は学びになりましたか、番号を○でかこんでください。</p> <p>とても学びになった          まあ学びになった          あまり学びにならなかった          全然学ぶものがなかった</p> <p>問4、上記番号を選んだ理由</p> <p>*<u>学びになった人は何が学びになりましたか</u>          *<u>ならなかった人はなぜ学びにならなかったか</u>教えてください</p> <p>(以下省略) 全部で問7まで</p>		

## 結果（授業の効果）

### 1、アンケートの結果

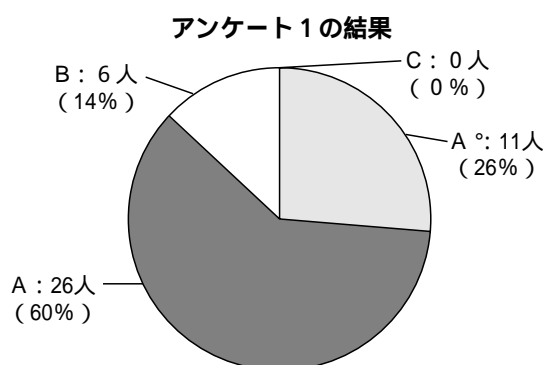
#### アンケート1について

43人全員がレポートを提出（回答率100%）

レポートの内容を以下のような基準で評価した。

<評価基準> 保護者対応の重要性を理解している  
 時事問題について学ぶことの意味を理解している  
 を意識したうえで現場に出た時の自分自身の姿について触れられている

<結果> A<sup>o</sup> : とも非常によく理解している 11人（26%）  
 A : とも理解している 26人（60%）  
 B : のいずれかが欠けている 6人（14%）  
 C : この授業の目的が理解できていない 0人



「非常によく理解した」と「理解した」を合わせると8割以上の学生が当授業の目的を理解したと回答した。下記にそのことをうかがわせる学生の文章をいくつか紹介する。（文章全体ではなく、それぞれ一部抜粋）

保育の現場で働いているとさまざまな問題やトラブルが発生してくると思う。子ども自身に関わることが多いとは思いますが、それを取り巻く保護者や、子どもには関係ない保護者だけの問題も多いだろう。自分が原因で発生してしまう問題もあるだろうし、職場の人間関係に悩むことがあるかもしれない。そのような時には一人で勝手に行動したり問題を解決しようとしたりしないで、自分の意見を表現した上で他の人の意見を参考にして、受け入れる部分はしっかりと受け入れて、直すべきところはしっかり直してから問題を解決していくべきだと思う。（略）この授業では話し合いや相談が必要だということを感じさせてくれただけでなく、自分の思いや考えをしっかりとまとめて他の人にわかりやすく伝えていくことを練習する場所にもなった。また他の人の話をしっかりと聞いて、それについて自分は思うのか自分の考えと照らし合わせながら考える場にもなった。（男子学生）

この授業を通して専門職として学んでいかなければならないと思ったのは、まず人の話をしっかりと聞いて視野を広げることだ。ディベート授業になってから一層その大切さを感じた。自分の意見ばかりを伝えていても、周りの話を聞いていなければ結果的に一方的で偏った意見でしか考えられていないことになる。人から全く違う意見が出てくるかもしれないし、同じ意見でも違う方向から



とらえた意見が出てくるかもしれない。それを聞き入れ吸収することで自分の視野が広がり、深く追求できるようになると思う。(略)これからは子を育てるよりむしろその親を育てていかなくてはならないと思った。しかし専門職だからと見下すような態度で臨むのではなく、その親と同じラインに立ちアドバイスすることが大切になってくるのだと感じた。(男子学生)

この授業を通して学んでいかなければならないと思ったことは、人との関わりや社会についてです。保育士は子どもと関わり保育することが一番の仕事ですが、子どもたちの後ろには保護者がいます。子どもと上手に遊べたり援助できたりするのは当たり前、保護者ともうまくコミュニケーションをとることができなければプロとはいえないと思います。(略)どのような保護者がいて、何か問題が起きたときのどのようにすればよいのかを勉強できるとてもいい機会でした。(略)みんなで話し合うことで、一つの問題でもさまざまな意見があることがわかりました。自分はこう思っていたが友だちは違った、けれどどちらも間違っていない、ということがたくさんありました。十人いれば十人が違う意見を持っていて当然なのだということがわかりました。(略)保護者との会話で自分の考えとは違うなと思っても、このような考え方もあるのかとすんなり受け入れられるような気がします。保育士に受け入れられた保護者は、何度も会話していくうちに人の考えも受け入れてくれるかもしれません。このようにして保護者と信頼関係を築いていくのだと気づけたのは、何度もグループ討議を行ったおかげです。(女子学生)

世の中で起こっている問題や信じられないできごとについて深く考えることができ、またグループ討議によって人の考え、自分の考えを正面から受け取る機会を持つことができたと感じています。社会に出るともっとたくさん人間がいて、それぞれ持っている考えや、育った環境、家庭環境や価値観は違うはずですが。この授業で、他人の意見をもっとしっかりと聴く、聴いたうえで受け止め、自分の意見はどうか考え、伝える、発言するという、相談を受けたときにとるべき行動を学べたのではないかと思います。(略)幼児が問題を抱えている場合、保護者と連携をとり協力しながら解決に向かうというのが理想的ですが、そのためには保護者から信頼してもらうことがとても大切なのではないかと思います。話しているときや相談ごとのときには時事問題への知識や、多様な価値観、さまざまな家庭環境や生活様式があることへの理解が必要であり、知識と物事の深い捉え方を持つことが大切だと感じます。グループ討議やディベートを通して、知識を得ることや物事の多様なとらえ方をするトレーニング、自分の意思や考えを理論的に順序だてて発言するトレーニング、人の意見を最後まで聴き受け止めるトレーニングができたのではないかと感じます。(女子学生)

保育者が学んでいかなければならないことは、幅広い知識と他者の気持ちを思いやる心、どんな立場であっても耳を傾けられる心を持つことだと思う。この結論は保育者でなくとも人間として持つものである。さまざまな問題をずっと話し合ってきて、他者に意見を聞くことが自分にとってどれほど学ぶことが多かったか、日々反省した。自分はどんな冷たい人間だったのか、このような場があって、他者の意見を聞いて初めて自覚した。(略)一方向しか物事を見られなければ、自分と同じ価値観の保護者としが付き合えなくなってしまう。現代の複雑な世の中、複雑な家庭があるのに、自分の今まで生きてきた道だけが当たり前だと思わず、どんな家庭があってもどんな悩みを抱えているのか、まずは知って受け入れることが大切だと思った。理解できることが一番よいけれども簡単なことではない。しかし、相手の気持ちを理解しようとする努力を忘れてはいけないと思った。(女子学生)

上記以外にも、さまざまな気づきを得られたことや体験できたことについてよかったとする意見が多数みられた。

アンケート2について（設問1～4の集計結果についてのみ掲載する）

43人全員がアンケートに回答（回答率100%）

問1の「このような授業の仕方についてどう思いますか」について

「大変よかったと思う」19人（44%）と「まあよかったと思う」22人（51%）を合わせて、9割強の学生がこのような授業の方法についてよかったと答え、2人が「あまりよくなかった」と答えている。よくなかったとした2人の理由は、「素人同士で話し合っても専門的な知識が得られない。」「乳児保育とは内容がずれていて、やっつけてこの授業に意味があるのかどうかわからなくなった。」ということであった。無記名式であったので正直な感想を書いたと思われ、この授業の目的とするところが完全には伝わりきっていなかったことがわかった。しかしこの2人も設問2では、「他者のさまざまな意見を聞くことで自分では気づけないことに気づくことができた。」「いろいろな手遊びを知れて、みんなの意見も聞いて学べる授業だった。」という理由で「まあ学びになった」と回答している。

問2、問1の「大変よかったと思う」、あるいは「まあよかったと思う」と回答した人たちの理由を整理してみると以下のようなものである。

- \* 皆のさまざまな意見を聞くことができ、考え方、視野が広がり、今まで気づけなかったことにも気づくことができた、またその事柄について深く考えることができた...19人
- \* 座学だけでなく、私たちが参加しての授業が多かったので身につくものがとても多い授業だった、またさまざまな授業形態が楽しく本気で考えたり学んだりできた...4人
- \* 今までいろいろな人の意見を聞いたり自分の考えを発表したりすることがなかったので、いろいろな意見があると知り刺激になった、思わぬ方向へ話が言ってしまったことも楽しかった...3人
- \* 小さくグループ分けすることで気を楽しんで授業に参加することができ、自分の意見が言いやすい雰囲気だった...3人
- \* 生徒主体だった...2人
- \* 専門知識だけでなく身近なニュースをとりあげることで、授業に興味を持って取り組むことができた...2人
- \* 普段新聞を読まないのに、記事に出会えたこと、友達の意見も聞いたことがとてもためになった...2人
- \* 最初は「乳児保育にあまり触れられていない」「将来役に立つのか」という思いがあったが、さまざまなテーマが取り上げられディスカッションするうちに、ここでやらなければ一生触れることができないこと、自分ではあまり考えないことについて深く学ぶことができた...1人
- \* 話し合いや手遊び、時事問題の発表、黒板を使った授業など色々なことができたので、大変だったけど勉強になった...1人
- \* ただ話を聞いているよりも自分の意見を考えることができた、だけど1つの新聞だけでは時事問題についての背景や原因などを詳しく理解できなかった...1人
- \* 教科書よりも楽しく取り組めた...1人
- \* ○×だけでは決められない もあってよいのだと思った...1人
- \* 子どもに関わるさまざまな事故や事件、問題を知ることができた...1人
- \* 知識だけでは得られない人間性のあることを学べた...1人
- \* どの授業よりためになる身のある感じがよかった...1人

『まあよかったと思う』という回答の“まあ”が付いた理由は以下のようなものである。

- \* グループのメンバーがほとんど同じだったから... 6人  
(グループメンバーが毎回ほとんど同じであったという回答にはとても驚いた。毎回違う人とグループになれるように組んだつもりで、最終回分まで表にして配付したからである。終了後のアンケートで知るのではなく、途中で学生から指摘があるとよかった。)
- \* 知識として先生から教えてもらう時間が少なくなったのではと思ったから... 1人

問3の「この授業は学びになりましたか」については『とても学びになった』33人(77%)と『まあ学びになった』10人(23%)を合わせて全員が学びになったと答えた。

問4、問3の『とても学びになった』『まあ学びになった』の理由は以下のようなものである。(人数はのべ人数)

- \* 他人の意見が自分と違っていろいろな考え・気持ちがあるんだなと思った(目からうろこが落ちた)、一人で考えるより深く考えることができた...25人
- \* 新聞の記事を見ることがあまりないので、この授業を通して最近の時事問題など新たな知識を得ることができてよかった...13人
- \* 手遊びなどは保育に使えるものだったし、時事問題では問題と向かい合うことができた... 6人
- \* 乳児についての専門知識も学べたし、いま問題になっていることを皆と話し合うことで考えが変わったり、もっと見直さなくてはいけないのかなと考えさせられたりした... 4人
- \* 世の中のできごとに注目し考えることで、自分の意見を持つことができた... 2人
- \* 時事問題を発表したことにより、授業のため以外にもニュースを見て考えるようになった... 2人
- \* それぞれの人の考え方や価値観の違いを知った上でそれを共有したり、反対の意見を逆に参考にすることを学んだ... 2人
- \* 現場での対応の仕方などを考え、学ぶ機会になった... 2人
- \* 課題について考える力や、他人を納得させるような話の進め方(ディスカッション、ディベート)が身についたように思う... 1人

### 考察および今後の課題

最初は授業の目的を十分に理解してもらうことができずに学生の表情にもとまどいが出ていたが、回を重ねていくうちに全体の雰囲気に変化してきた。どのような意見であっても「正しい」「間違い」で判断するのではなく、人それぞれ考えが違ってあたりまえということが理解されてくるにつれて、時事問題のテーマの絞り方も洗練され、発表のしかたにも工夫が加わり、ディスカッションも活発になった。アンケートには「話し合う時間がもっと長いほうがよかった。」という意見が数件寄せられたが、自分の話を真剣に聞いてもらえ、何を言っても安心という雰囲気があれば学生も話をしたいと思っていることがわかった。

また教員が作ったメンバー表がうまく組まれておらず、毎回ほぼ同じような人と一緒になっていたらしい。「もっと違う人と話しをしたかった」という記載が18人(4割強)から寄せられた。特定の人としか付き合えないのが最近の若者の風潮と言われているなか、より多くの人と話す機会が欲しかったという意見は好ましいことであると感じた。グループの組み方も学生に任せただけのほうがよかったよう

である。また、「少人数だったので話しやすかった」という意見があり、1グループ4～5人はちょうど話しやすい人数だったようである。

レジュメは前日か遅くとも当日の午前中までに教員に届け、教員が学生の人数分を印刷して授業で配付するという方法をとったが、発表担当になった学生は誰一人約束を違えることなく、実習の直後であっても期限までに教員の手元に届いた。

今回の授業については学生からさまざまな感想が寄せられたが、一番多かったのは「皆のさまざまな意見を聞くことで、考え方、視野が広がった。人それぞれ違った考えを持っていて、他人と自分の意見が違って当たり前なんだということに気づいた。」ということであった。その気づきを社会人になったときに、保護者への対応や同僚とのつきあい方にかわっていきたいという意見が多くみられた。まさにこの授業のねらいとしていたところであり、ぜひそのようにかかわってほしい。

そのほかにも人間の成長をうかがわせる記載があったが、それがこの授業によるものなのか、もともと本人が持っていた力なのか、あるいは多感な年代の半年間という時間の経過がもたらした変化なのかの判定はむずかしい。おそらくそれらすべてが絡み合っただけの成長であると思われる。授業による効果について言及するのであれば、適切な測定方法を用いて事前・事後の変化を明らかにする必要がある。今回は、事前においては何もしていないため数値の変化としての効果判定はできなかったが、アンケート回答をみる限りにおいては、この授業による経験が少なからずも影響を与えていると見受けられる。少なくとも、一人ひとりの言葉からはマイナスの働きかけにはなっていなかったことが窺える。

我が国で少子化が注目され始めて久しく、さまざまな少子化対策が打ち出されているがいまだに歯止めがかからない状況である。多くの人が結婚し子どもを生み育てたい、結婚しても子どもを持って働きたいと願っているのにも関わらず少子化は進行している。厚生労働省からは、次世代育成対策として「子育て支援のための施策の基本的方向について」が出されていて、それによると少子化の原因の一つに晩婚があるとされている。晩婚化は、女性の高学歴化、自己実現意欲の高まりなどから独身生活のほうが自由であるとする考え方が根本にあり、さらに子育て支援体制が不十分なことから家事、育児への負担感や拘束感が大きく、仕事と子育ての両立が難しいため子どもを持たないと分析している。その対策として、2007年度から児童手当や乳幼児加算などさまざまな経済的支援を充実するとともに、雇用や乳児訪問、地域子育て支援の充実、放課後の子ども対応など子育て支援の充実に取り組み始めている。

しかし子育てをしている母親たちが実際は何を求めているのであろうか。先に紹介した「保育園を利用している親の子育て支援に関する調査報告書」には仕事を持ちながら子育てをしている母親たちの声が載せられており、それによると「私の大変さをわかって欲しい」、「努力していることを認めて欲しい」、「アドバイスではなく一緒に寄り添って欲しい」という母親の孤独感や、慈愛願望欲求が伝わってくる。この授業で目指したかったことは、そのような母親たちの頑張りを認め、受け入れ、寄り添える柔軟性、広いこころを持つことの大切さに気づくことであった。

人が変わるとしたら知識によってではなく感情が動くことによってである。専門知識をアドバイスされることではなく保育士の温かいこころに触れるという関わりによってである。保育士は人との関わりの中だけでも、特にこれから人生を始めようとしている乳幼児が対象である。保護者に寄り添うやさしい姿を子どもたちが見ることによって、心豊かな次世代育成につながっていくことを願う。

**参考・引用文献**

- 1) 松原紀子「地域における子育て支援」教育、704、2004.9
- 2) 武山ゆかり「子育て応援団 医療・福祉・保健」教育、704、2004.9
- 3) 東社協保育部会調査研究委員会「保育園を利用している親の子育て支援に関する調査報告書」社会福祉法人東京都社会福祉協議会、2005
- 4) 東社協保育部会調査研究委員会「保育園を利用している親の子育て支援ニーズに関する分析・提言」社会福祉法人東京都社会福祉協議会、2007
- 5) 厚生労働省「平成19年版 厚生労働白書」、2007
- 6) 厚生労働省分野別施策情報「子育て支援」[www1.mhlw.go.jp/topics/syousika/tp0816-3\\_18.html](http://www1.mhlw.go.jp/topics/syousika/tp0816-3_18.html)

